

十三夜会のこと

権藤芳一

十三夜会の初めての会合は、昭和三十三年（一九五八）一月十三日に行われました。四十八年前のことです。

菅泰男さんが、アメリカ留学から帰ってこられたので、一度歓迎会をやるうというのが、そもそもの目的でした。集まって、芝居話に花を咲かせているうちに、こんな会を毎月やろうということになり、それなら京阪各座の舞台を話題にしよう、よかつたものに賞を贈ろう、となると会名があつたほうがいい、今夜は十三日だから「十三夜会」がよかろうーといった、言わばハズミで出来た会です。それが以来、毎月欠かさず今日まで続いてきたわけです。（平成十八年一月で四十八年通算五七七回になります）

その時集まったのが、山本修二、林孝一、辻久一、菱田雅夫、北岸祐吉、辻部政太郎、沼艸雨、大西重孝、大鋸時生、菅泰男の十名でした。（翌月から松田基弘、権藤芳一が事務局として加わりました）何故こういう顔ぶれになつたかについては、詳しいことは省きますが、戦中・戦後、武智鉄二が主宰した「断絃会」・雑誌「観照」「演劇評論」を通じての交遊関係によります。

（武智自身はその時点ですでに東京在住でした。）

その後、メンバーには移動がありました。亡くなられた方、新しく参加していただいた方、退会された方もあつて、現在は次の十名です。

菅泰男、斎藤安秀、権藤芳一、喜志哲雄、水口一夫、森西真弓、西村彰朗、上田由香利、木村健治、太田耕人、

それぞれ経歴や専門、年齢は違いますが、演劇が好きなことにかけては人後に落ちず、古典芸能から商業演劇、小劇場など見てまわっている仲間です。毎月話題が尽きません。

十三夜会では毎月、賞を出しています。しかしそれは、「よくやった、ほめてやる」というものではなく、山本先生がいつもおっしゃっていたように「いい舞台を見せてくれてありがとう」という感謝の気持ちであり、「これからも頑張ってください」という期待のあらわれなのです。賞といっても、盾やトロフィーを贈るわけでもなく、もちろん賞金もありません。色紙に推賞の理由を書いて差し上げるだけです。月間賞とは別に、年間大賞を推考して、無地の金扇に染筆して贈っています。それでも、喜んでくださる方もあり、励ましにもなっているようです。

以前は歌舞伎新聞、京都新聞、京都府立文化芸術会館友の会ニュースなどに座談会の抄録を記載しておりました。現在は『上方芸能』に三カ月毎にまとめて結果のみ報告しています。

会員のうちその後、左の方々が亡くなりました。(逝去順)

大西重孝	昭和四二年五月二〇日	行年六十二歳
山本修二	" 五一年一月二九日	" 八十一歳
北岸祐吉	" 五一年七月二三日	" 七十二歳
辻久一	" 五六年七月三日	" 六十六歳
大鋸時生	" 五九年七月一日	" 七十九歳
辻部政太郎	" 六三年八月二日	" 八十二歳
林孝一	平成四年九月二二日	" 八十一歳
沼艸雨	" 四年十月二七日	" 八十七歳
大川達雄	" 一一年三月八日	" 七十一歳
近藤公一	" 一五年三月二三日	" 七十五歳

今回新しく太田耕人君に参加していただくことになりました。

現在の会員名簿は別紙の通りです。

貴劇場、貴会の公演催物に際しまして御案内などいただければ幸甚です。